

令和8年7月12日（日）施行

第223回 全経簿記能力検定試験 2級 商業簿記 解答

第1問

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	受取手数料	100,000	未収手数料	100,000
2	クレジット売掛金 支払手数料	784,000 16,000	売上	800,000
3	賞与引当金 賞与	250,000 150,000	普通預金	400,000
4	仕入	120,000	本店	120,000
5	未収金 備品減価償却累計額 減価償却費	800,000 2,250,000 125,000	備品 固定資産売却益	3,000,000 175,000
6	仮受消費税	1,050,000	仮払消費税 未払消費税	750,000 300,000
7	繰越利益剰余金	650,000	損益	650,000

第2問

期首売掛金	期首資本金	売上原価	当期純利益
¥ 593,400	¥ 573,000	¥ 4,401,600	¥ 260,400

第3問

商 品 有 高 帳

J 商 品

令 8 年	摘 要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金 額	数量	単価	金 額	数量	単価	金 額
6	1	前月繰越	540	1,240	669,600			540	1,240	669,600
	3	新 潟	900	1,320	1,188,000			1,440	1,290	1,857,600
	6	新 潟				90	1,320	1,350	1,288	1,738,800
	10	静 岡				870	1,288	480	1,288	618,240
	12	静 岡	120	1,288	154,560			600	1,288	772,800
	19	石 川	600	1,300	780,000			1,200	1,294	1,552,800
	26	山 梨				900	1,294	300	1,294	388,200
	30	次月繰越				300	1,294			
			2,160		2,792,160	2,160				

注 摘要欄には、取引先を記入すること。ただし、「〇〇株式会社」の株式会社は省略し、「〇〇」でよい。

純 売 上 高	売 上 原 価	売上総利益（粗利益）
¥ 3,600,000	¥ 2,130,600	¥ 1,469,400

第4問

1	ウ	2	イ	3	ウ
---	---	---	---	---	---

第5問

精 算 表

勘 定 科 目	残 高 試 算 表		整 理 記 入		損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	788,400			26,400			762,000	
普 通 預 金	708,000						708,000	
電 子 記 録 債 権	588,000						588,000	
売 掛 金	756,000			44,000			712,000	
貸 倒 引 当 金		7,200		18,800				26,000
売買目的有価証券	734,400			19,100			715,300	
繰 越 商 品	642,000		685,000	642,000			685,000	
仮 払 法 人 税 等	60,000			60,000				
備 品	1,200,000						1,200,000	
備品減価償却累計額		450,000		200,000				650,000
電 子 記 録 債 務		912,000						912,000
買 掛 金		489,600						489,600
仮 受 金		44,000	44,000					
資 本 金		2,200,000						2,200,000
資 本 準 備 金		250,000						250,000
利 益 準 備 金		150,000						150,000
繰越利益剰余金		355,200						355,200
売 上		5,936,900				5,936,900		
受 取 手 数 料		627,600		48,000		675,600		
仕 入	3,044,400		642,000	685,000	3,001,400			
給 料	1,052,400				1,052,400			
支 払 家 賃	588,500		53,500		642,000			
保 険 料	520,000			40,000	480,000			
水 道 光 熱 費	410,400		12,000		422,400			
消 耗 品 費	330,000			35,000	295,000			
	11,422,500	11,422,500						
雑 (損)			14,400		14,400			
貸倒引当金繰入			18,800		18,800			
減 価 償 却 費			200,000		200,000			
有価証券運用損益			19,100		19,100			
(消 耗) 品			35,000				35,000	
(未 収) 手数料			48,000				48,000	
(未 払) 家 賃				53,500				53,500
(前 払) 保険料			40,000				40,000	
法 人 税 等			144,000		144,000			
(未 払) 法人税等				84,000				84,000
当期純(利 益)					323,000			323,000
			1,955,800	1,955,800	6,612,500	6,612,500	5,493,300	5,493,300

令和8年7月12日（日）施行

第223回 全経簿記能力検定試験 2級 商業簿記 解説

第1問

1. 前期末に見越計上していた未収手数料の再振替仕訳

前期末には、まだ受け取っていない手数料であっても、発生主義にもとづいて当期の収益として計上する必要がある。そのため未収手数料勘定を用いて見越計上を行う。

① 前期末 収益の見越計上

手数料はまだ受け取っていないため資産である未収手数料を計上し、同時に収益である受取手数料を計上する。

(借) 未 収 手 数 料	100,000	(貸) 受 取 手 数 料	100,000
---------------	---------	---------------	---------

② 期首の再振替仕訳

次期になると前期末に行った見越計上を一度取り消すため、再振替仕訳（逆仕訳）を行う。

2. クレジットカードによる商品売上

商品をクレジットカード払いで販売した場合、代金はその場では受け取らず、後日クレジットカード会社から入金される。そのため、販売時には後日代金を受け取る権利であるクレジット売掛金勘定を用いる。また、クレジットカード会社へ支払う販売手数料は販売時の費用であるため、支払手数料勘定を用いる。なお、売上勘定は販売代金の総額で計上する。

① 販売手数料の計算

販売代金の2%が販売手数料となる。

$$\begin{aligned}\text{販 売 手 数 料} &= \text{¥}800,000 \times 2\% \\ &= \text{¥}16,000\end{aligned}$$

② クレジット売掛金の計算

クレジット売掛金勘定は、販売代金から販売手数料を差し引いた金額となる。

$$\begin{aligned}\text{クレジット売掛金} &= \text{¥}800,000 - \text{¥}16,000 \\ &= \text{¥}784,000\end{aligned}$$

3. 賞与の支払い

賞与を支払った場合、前期までに賞与引当金として見積もり計上していた金額を取り崩す。

また、実際の支払額が賞与引当金を上回る場合は、その差額を当期の費用として賞与勘定を用いて処理する。

① 賞与引当金の確認

賞与引当金¥250,000 が設定されている。

② 賞与勘定の計算

実際の支払額が賞与引当金を上回るため、その差額を当期の費用として賞与勘定で処理する。

$$\begin{aligned}\text{賞 与 勘 定} &= \text{¥}400,000 - \text{¥}250,000 \\ &= \text{¥}150,000\end{aligned}$$

4. 本店から支店への商品発送（支店独立会計制度）

本店から商品発送の通知を受けた場合、支店独立会計制度では、支店は本店から商品を仕入れたものとして処理する。そのため、送付された商品の原価は仕入勘定を用い、その代金は本店に対する債務として本店勘定を用いる。

- ・ 本店は、支店へ商品を発送した場合、支店勘定を用いて処理する。

(借) 支	店	120,000	(貸) 売	上	120,000
-------	---	---------	-------	---	---------

5. 固定資産の売却

事務用の備品（固定資産）を売却した場合は、まず当期分の減価償却費を計算する。その後、備品の取得原価及び減価償却累計額を帳簿から取り除く。そして、当期分の減価償却費を計上する。売却価額と帳簿価額との差額は、固定資産売却益勘定または固定資産売却損勘定を用いて処理する。また、代金を後日受け取る場合は、未収金勘定を用いて処理する。

① 帳簿価額の計算

$$\begin{aligned}\text{帳簿価額} &= \text{取得原価} - (\text{減価償却累計額} + \text{当期の減価償却費}) \\ &= ¥3,000,000 - (¥2,250,000 + ¥125,000) \\ &= ¥625,000\end{aligned}$$

② 差額（固定資産売却益）の計算

$$\begin{aligned}\text{売却価額} & ¥800,000 \\ \text{帳簿価額} & ¥625,000 \\ \text{差額} & = ¥800,000 - ¥625,000 \\ & = ¥175,000\end{aligned}$$

6. 消費税の確定（税抜方式）

税抜方式では、取引時に仮払消費税勘定及び仮受消費税勘定を用いて処理する。決算時には、仮払消費税と仮受消費税を相殺し、その差額を納付すべき消費税額として未払消費税勘定を用いて処理する。

・ 未払消費税勘定（納付すべき消費税額）の計算

納付すべき消費税額は、仮受消費税から仮払消費税を差し引いて計算する。

$$\begin{aligned}\text{未払消費税} &= ¥1,050,000 - ¥750,000 \\ &= ¥300,000\end{aligned}$$

7. 資本振替（当期純損失の振替）

決算において当期純損失を算定した場合は、損益勘定の残高を繰越利益剰余金勘定へ振り替える。当期純損失が生じた場合は、繰越利益剰余金が減少するため、繰越利益剰余金勘定を借方、損益勘定を貸方として処理する。

第2問

仕入勘定

① 期首商品棚卸高

$$\text{期首貸借対照表の商品（繰越商品）残高} = ¥366,000$$

② 期末商品棚卸高

$$\begin{aligned}\text{期末商品} &= \text{期末貸借対照表借方合計} - (\text{期末現金} + \text{期末売掛金} + \text{期末土地}) \\ &= ¥2,350,800 - (¥411,600 + ¥789,600 + ¥808,800) \\ &= ¥340,800 \quad \text{※期末商品（繰越商品）}\end{aligned}$$

③ 純仕入高

$$\begin{aligned}\text{純仕入高} &= \text{期中総額（総仕入高）} - \text{仕入戻し} \\ &= ¥4,748,400 - ¥372,000 \\ &= ¥4,376,400\end{aligned}$$

④ 売上原価

$$\begin{aligned}\text{売上原価} &= \text{期首商品棚卸高} + \text{純仕入高} - \text{期末商品棚卸高} \\ &= ¥366,000 + ¥4,376,400 - ¥340,800 \\ &= \underline{¥4,401,600} \quad \text{※損益勘定の借方へ振替える}\end{aligned}$$

売上勘定

⑤純売上高

$$\begin{aligned}
 \text{純売上高} &= \text{期中総額（総売上高）} - \text{売上戻り} \\
 &= ¥4,750,800 - ¥120,000 \\
 &= ¥4,630,800 \quad \text{※損益勘定の貸方へ振替える}
 \end{aligned}$$

損益勘定

⑥当期純利益

$$\begin{aligned}
 \text{当期純利益} &= \text{総収益（貸方合計）} - \text{総費用（仕入＋その他費用）} \\
 &= (¥4,630,800 + ¥664,800) - (¥4,401,600 + ¥633,600) \\
 &= \underline{\underline{¥260,400}} \quad \text{※繰越利益剰余金勘定へ振替える}
 \end{aligned}$$

繰越利益剰余金勘定

$$\begin{aligned}
 \text{⑦次期繰越} &= \text{期末貸借対照表の繰越利益剰余金残高} \\
 &= ¥422,400
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 \text{⑧前期繰越} &= \text{貸借差額} \\
 &= ¥422,400 - ¥260,400 \\
 &= ¥162,000 \quad \text{※期首繰越利益剰余金}
 \end{aligned}$$

期末貸借対照表

⑨借入金

$$\begin{aligned}
 \text{借入金} &= \text{問題文に当期中に借入金¥124,000を返済している（当期中の借り入れはない）} \\
 &= ¥624,000 - ¥124,000 \\
 &= ¥500,000
 \end{aligned}$$

⑩資本金

$$\begin{aligned}
 \text{資本金} &= \text{貸借差額により計算} \\
 &= \text{借方合計} - \text{貸方（買掛金＋借入金＋繰越利益剰余金）} \\
 &= ¥2,350,800 - (¥740,400 + ¥500,000 + ¥422,400) \\
 &= ¥688,000 \quad \text{※資本金勘定借方 次期繰越額}
 \end{aligned}$$

資本金勘定

⑪前期繰越

$$\begin{aligned}
 \text{前期繰越} &= \text{貸借差額により計算} \\
 &= \text{借方¥688,000} - \text{貸方¥115,000} \\
 &= \underline{\underline{¥573,000}} \quad \text{※期首資本金}
 \end{aligned}$$

期首貸借対照表

⑫売掛金＝貸借差額により計算

$$\begin{aligned}
 &= \text{貸方（買掛金＋借入金＋資本金＋繰越利益剰余金）} - \text{借方合計（現金＋売掛金＋商品＋土地）} \\
 &= (¥709,200 + ¥624,000 + ¥573,000 + ¥162,000) - (¥364,800 + ¥366,000 + ¥744,000) \\
 &= ¥2,068,200 - ¥1,474,800 \\
 &= \underline{\underline{¥593,400}} \quad \text{※期首売掛金}
 \end{aligned}$$

第3問

6月1日 前月繰越高 540個 @¥1,240 ¥669,600

6月3日 掛け仕入

(借) 仕 入	1,188,000	(貸) 買掛金(新潟)	1,188,000
---------	-----------	-------------	-----------

6月6日 掛け返品(戻し)

(借) 買掛金(新潟)	118,800	(貸) 仕 入	118,800
-------------	---------	---------	---------

6月10日 掛け売上

(借) 売掛金(静岡)	1,827,000	(貸) 売 上	1,827,000
-------------	-----------	---------	-----------

6月12日 掛け返品(戻り)

(借) 売 上	252,000	(貸) 売掛金(静岡)	252,000
---------	---------	-------------	---------

6月19日 仕入

(借) 仕 入	780,000	(貸) 普 通 預 金	780,000
---------	---------	-------------	---------

6月26日 掛け売上

(借) 売掛金(山梨)	2,025,000	(貸) 売 上	2,025,000
-------------	-----------	---------	-----------

J商品の移動平均法による商品有高帳の記入について

6月3日 掛け仕入	数量 900個 @¥1,320 金額¥1,188,000
仕入後の残高	数量 540個+900個=1,440個 金額 ¥669,600+¥1,188,000=¥1,857,600 単価 ¥1,857,600÷1,440個=@¥1,290
6月6日 掛け返品(戻し)	数量 90個 @¥1,320 金額¥118,800
返品後の残高	数量 1,440個-90個=1,350個 金額 ¥1,857,600-¥118,800=¥1,738,800 単価 ¥1,738,800÷1,350個=@¥1,288
6月10日 払出(売上)	数量 870個 @¥1,288 金額¥1,120,560
払出後の残高	数量 1,350個-870個=480個 金額 ¥1,738,800-¥1,120,560=¥618,240 単価 @¥1,288
6月12日 掛け返品(戻り)	数量 120個 @¥1,288 金額¥154,560
返品後の残高	数量 480個+120個=600個 金額 ¥618,240+¥154,560=¥772,800 単価 ¥772,800÷600個=@¥1,288
6月19日 仕入	数量 600個 @¥1,300 金額¥780,000
仕入後の残高	数量 600個+600個=1,200個 金額 ¥772,800+¥780,000=¥1,552,800 単価 ¥1,552,800÷1,200個=@¥1,294
6月26日 払出(売上)	数量 900個 @¥1,294 金額¥1,164,600
払出後の残高	数量 1,200個-900個=300個 金額 ¥1,552,800-¥1,164,600=¥388,200 単価 @¥1,294

6月分のJ商品の純売上高

¥1,827,000(6月10日)-¥252,000(6月12日)+¥2,025,000(6月26日)=¥3,600,000

6月分のJ商品の売上原価(商品有高帳より)

¥1,120,560(6月10日)-¥154,560(6月12日)+¥1,164,600(6月26日)=¥2,130,600

6月分のJ商品の売上総利益(粗利益) 純売上高-売上原価 で求める。

¥3,600,000-¥2,130,600=¥1,469,400

第4問

1. ファイナンス・リース取引におけるリース料の支払い（利子込み法）

借方科目	金額	貸方科目	金額
リース負債	500,000	普通預金	500,000

ファイナンス・リース取引では、リース契約時にリース資産及びリース負債を計上する。その後、リース料を支払う場合は、リース負債を減少させる。

ウでは、利子込み法を採用しているため、支払うリース料のうち利息部分を区分せず、支払額の全額をリース負債の返済として処理している。

一方、アでは、ファイナンス・リース取引であり、契約を締結した時点でリース資産及びリース負債を計上する仕訳となる。イでは、オペレーティング・リース取引であるため、契約時の仕訳は行わない。エでは、リース資産の減価償却を行うため、減価償却費を計上する仕訳となる。

よって、**ウ** が取引の説明であると判断できる。

2. 備品の改良及び修繕（修繕引当金）

借方科目	金額	貸方科目	金額
備品	200,000	現金	300,000
修繕引当金	100,000		

備品の改良と修繕を行った場合、改良のための支出は備品勘定を用いて処理し、修繕のための支出は修繕費勘定を用いて処理する。なお、この修繕のために修繕引当金が設定されている場合は、修繕費を計上せず、修繕引当金を取り崩す。

イでは、改良のための支出は¥200,000、修繕のための支出は¥100,000である。また、修繕引当金¥100,000が設定されているため、修繕のための支出は修繕引当金を取り崩して処理している。

一方、アでは、改良のための支出が¥100,000、修繕のための支出が¥200,000となるため、修繕引当金¥100,000では修繕費を全額処理することができず、不足額は修繕費勘定で処理する。ウでは、修繕引当金が設定されていないため、修繕のための支出は修繕費勘定で処理する。エでは、次期の修繕に備えて修繕引当金を繰り入れる取引であり、本問の仕訳とは異なる。

よって、**イ** が取引の説明であると判断できる。

3. 地域共通商品券の清算

借方科目	金額	貸方科目	金額
普通預金	150,000	他店商品券	150,000

商品を地域共通商品券で販売した場合は、他店商品券勘定を用いて処理する。その後、地域共通商品券を発行している商工会議所等で商品券を清算した場合は、他店商品券勘定を取り崩し、代金の入金額を普通預金勘定で処理する。

ウでは、普通預金が増加し、他店商品券が減少しているため、地域共通商品券を商工会議所で清算し、代金が普通預金口座へ振り込まれた取引である。

一方、アでは、商品を販売した時点の取引であるため、他店商品券が増加し、売上を計上する仕訳となる。イでは、商品代金が直接普通預金口座へ振り込まれるため、売上を計上する仕訳となる。

エでは、商品を購入した取引であるため、仕入を用いる仕訳となる。

よって、**ウ** が取引の説明であると判断できる。

第5問

付記事項

仮受金の処理

(借)	仮受金	44,000	(貸)	売掛金	44,000
-----	-----	--------	-----	-----	--------

決算整理事項

1. 現金の処理

帳簿残高 ￥788,400

実際有高 ￥762,000

差 額 ￥788,400－￥762,000＝￥26,400

実際有高に合わせるため、現金の帳簿残高を減少させる。

不一致の原因は、水道光熱費￥64,000を支払った際に、金額を￥52,000と誤記入していたことが判明したため、水道光熱費勘定を修正する。

残額は原因が判明しなかったため、雑損勘定を用いて処理をする。

(借)	水道光熱費	12,000	(貸)	現金	26,400
	雑損	14,400			

2. 売上原価の算定

(借)	仕入	642,000	(貸)	繰越商品	642,000
	繰越商品	685,000		仕入	685,000

3. 貸倒引当金の見積もり

電子記録債権の期末残高￥588,000 売掛金の修正後期末残高￥712,000

貸倒引当金の見積もりの金額

(￥588,000＋￥712,000) × 2%＝￥26,000

貸倒引当金繰入額

￥26,000－￥7,200＝￥18,800

(借)	貸倒引当金繰入	18,800	(貸)	貸倒引当金	18,800
-----	---------	--------	-----	-------	--------

4. 備品の減価償却費の計上

￥1,200,000 ÷ 6年＝￥200,000

(借)	減価償却費	200,000	(貸)	備品減価償却累計額	200,000
-----	-------	---------	-----	-----------	---------

5. 売買目的有価証券の評価替え

帳簿価額 ￥734,400

評価額 ￥715,300

差 額 ￥734,400－￥715,300＝￥19,100 (有価証券運用損となる)

評価額に合わせるため、売買目的有価証券勘定を減少させる。

(借)	有価証券運用損益	19,100	(貸)	売買目的有価証券	19,100
-----	----------	--------	-----	----------	--------

6. 消耗品の未使用高

(借)	消耗品	35,000	(貸)	消耗品費	35,000
-----	-----	--------	-----	------	--------

7. 手数料の未収高 (収益の見越し)

(借)	未収手数料	48,000	(貸)	受取手数料	48,000
-----	-------	--------	-----	-------	--------

8. 家賃の未払高 (費用の見越し)

(借)	支払家賃	53,500	(貸)	未払家賃	53,500
-----	------	--------	-----	------	--------

9. 保険料の前払高 (費用の繰延べ)

(借)	前払保険料	40,000	(貸)	保険料	40,000
-----	-------	--------	-----	-----	--------

10. 未払法人税等

法人税等の計算 当期の課税所得￥480,000 × 税率 30%＝￥144,000

(借)	法人税等	144,000	(貸)	仮払法人税等	60,000
				未払法人税等	84,000